



な き じん そん いま どもり

今帰仁村今泊のフクギ屋敷林と集落景観

や しき りん

No.47-02

所在地：沖縄県今帰仁村

選定年月日：令和元年10月16日

面積：683.3ha

選定基準：一(八)

(1) 概要

沖縄島(じま)北西部から東シナ海に突き出す本部(もとぶ)半島の北側中央部に位置し、イノー（サンゴ礁の浅瀬）、海際の現集落、農地、段丘上の今帰仁城(ぐすく)跡及び旧集落跡（史跡、世界遺産）、山林から形成されています。

近世の集落移動に際し、河川や湧水が流れ込む広い低地が近く、海産物が豊富なイノーに面し、地下水が得られる微高地が適地とされたこと、また、北風や台風の影響を避ける工夫が不可欠であったことを全体として伝える景観であり、中でも、風から屋敷を抱護するフクギ屋敷林が、浜抱護や村抱護と共に緑豊かな住環境をつくり、際立った特徴です。

低地に拡大された農地が隔てる旧集落跡と現集落は、集落立地の考え方が、城との関係性から生活や農業の利便性へと重点を移したことを示します。一方で、沖縄固有の自然崇拜に基づく祭祀や芸能は、集落移転後も継承され、クバの御嶽や城跡を始め、山から浜までの各拝所等で現在も行われています。

こうした特徴や特性は、亜熱帯気候に属する島嶼(とうしょ)群である沖縄県の集落の成り立ちを知る上で示唆に富み、かつ、地域的な慣習や信仰と景観との関りを良好に伝えるものであり、我が国の生活及び生業の理解に欠くことのできない文化的景観として貴重です。



浅瀬に突き出す微高地に集落が立地



丘陵の今帰仁城跡。近傍に旧集落跡も遺存

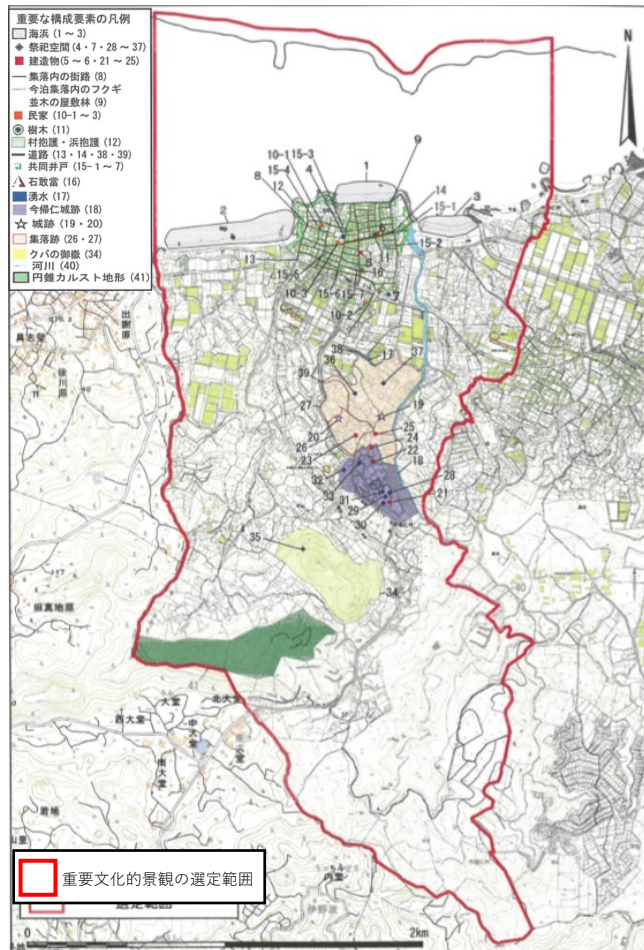


フクギの屋敷林



拝所となる浜

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：41件
- 国指定等文化財：1件（史跡）、1件（名勝）

（３）選定による効果

今泊集落の住民を対象にした講習会を通して、今までは何となく「貴重」と思っていた場所が、特別な空間で歴史的な価値があり、未来へ受け継いでいかなければならない「特別な存在（誇り）」ということを再認識する機会になっています。

ワークショップでは、「フクギを守っていくことの大切さ」、「フクギを活用した商品開発」などの意見の他、「高齢化による担い手不足」、「観光活用時のプライバシー問題」などの課題も出ており、住民が真剣に考え、意見を交わし合うとても貴重な場となりました。



講師による講習会



ワークショップの様子

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 今帰仁村今泊のフクギ集落景観 調査報告書・保存計画書（平成30年3月、沖縄県今帰仁村教育委員会）
- 「今帰仁村今泊のフクギ屋敷林と集落景観」整備計画（令和5年3月、沖縄県今帰仁村教育委員会）
- ホームページ

<https://www.nakijinjoseki-osi.jp/information.php>

（５）活用事例

事例47-02 ①

フクギ植栽による景観の保全、防災機能の強化

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

今泊集落ではかつてはフクギ屋敷林とチニブ（竹垣）で構成された屋敷囲いを連ねていましたが、採光や自家用車を入れるためにフクギが伐採されたり、チニブがブロック塀やトタンに変わってしまっています。

集落の景観保全、防災機能の強化、地元の人材育成を図るため、村として、重要文化的景観の整備計画策定に合わせて、フクギの維持保全のための『フクギの手引き』を作成し、これを踏まえてフクギの植栽を始めています。

令和5年度に植栽した住民宅がモデルとなり、フクギを植栽したいという声が届き始めています。実際に植栽した件数はまだ少ないですが、今後もフクギの植栽を継続し、それに伴い住民の保全意識を高め、行政と住民で協力して今泊をより魅力的な集落にできるよう励んでいきます。

今帰仁村歴史文化センター館長の声

私は今泊の出身で、フクギ屋敷林に象徴される故郷の美しい景観を、子供のころから残したいと思っていました。フクギ屋敷林と集落景観を次の世代へ繋げていけるよう、地域が一体となって、魅力ある地域づくりに取り組んでいきます！



フクギ屋敷林とチニブ



ブロック塀の屋敷囲い



フクギを植栽した住民宅①



フクギを植栽した住民宅②

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例47-02 ②

今帰仁グスクを学ぶ会のガイドツアー「今泊集落の散策」

●住民や団体等による取り組み

世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産となっている今帰仁城跡では、今帰仁村公認のボランティア団体「今帰仁グスクを学ぶ会」のガイドが2名常駐しています。城内を無料でご案内しており、年間1万人以上の方をご案内しており、とても好評です。

その今帰仁グスクを学ぶ会が自主事業（有料予約制）でガイドツアー「今泊集落の散策」を行っています。

かつては今帰仁城の前面に位置していた今帰仁ムラと親泊ムラが、自然的背景や地理的背景、薩摩の琉球侵攻による歴史的背景など様々な要因により現在の集落に移動したと考えられています。

このような今帰仁グスクと集落移転の歴史を、文化的景観の重要な構成要素を巡りながら伝えています。

今帰仁グスクを学ぶ会 ガイドの声

今泊集落の散策では、年間約40名の方をご案内しています。集落内に点在する構成要素がどのような意味を持っているか等を学ぶため、利用者からはとても好評を得ています。



重要な構成要素の前でガイドする様子



現在は36名が在籍



他にもガイドツアーを実施



普段は城内をご案内

団体等情報：今帰仁グスクを学ぶ会 <https://www.nakijingusuku.com>
〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊5101 TEL：0980-56-4406

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育